

おごせ 教育 Pick Up

令和2年度 越生町の教育

越生町では、知・徳・体の調和（生きる力）のとれた教育を実践することを目標にしています。令和2年度、特に重点を置いて取り組むことを紹介します。

1 確かな学力の育成（知）

小学校は、令和2年4月から新学習指導要領が完全実施となり（中学校は、令和3年4月）、外国語（英語）と道徳が教科となり週の授業時間が1時間増加となります。

（1）従来の週時間割で実施
越生町は、6時間の日を増やさないで対応します。これ

は、二学期制や土曜日授業で生み出した時間を活用したものです。越生町の小学校、中学校とも令和元年度から移行して実施しています。

（2）A・L・Tの増員

A・L・T（外国人英語助手）を3名から5名に増員します。3校に常勤のA・L・Tを配置し英語教育の充実を図ります。

（3）35人以下学級の継続

越生町では、平成25年度から35人以下学級を掲げ、町負担の教員を配置しています。引き続き、きめ細やかな指導を行っていきます。

（4）タブレットパソコン導入
小学校、中学校ともタブレットパソコンが用意されています。

学習は小学校低学年からしていきます。また、国の動きにも対応できるようにしていきます。



へパソコン操作の様子へ

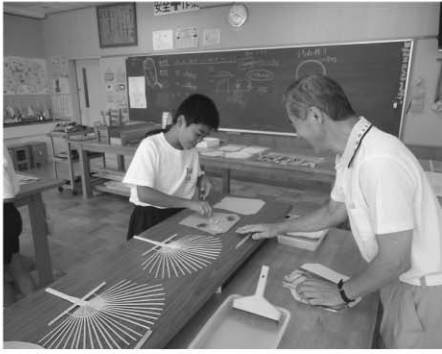
2 豊かな心の育成（徳）

不登校ゼロ、いじめ解消100%を目指して取り組んでいきます。また、道徳の教科化の趣旨を生かし、指導を充実します。

（1）さわやか相談室・適応指導教室の充実
指導体制を充実します。適応指導教室（図書館2階）やパソコンを使った学習も進めていきます。

（2）体験活動の充実

豊かな心を育成するため、体験活動を重視します。小・小連携や光耀祭などを充実していきます。



へ体験学習の様子へ

3 健やかな体の育成（体）

越生町の児童、生徒とも新

体力テストの結果では、毎年県の平均を大きく上回り、大変良い成果をあげています。

（1）生活習慣の充実

「家庭生活・家庭学習のすすめ」リーフレットを活用し、生活習慣の充実を図ります。

（2）望ましい食習慣の確立

給食日本一の実績を生かし、食育の推進を図ります。

4 新規事業等

（1）越生町教育及び子育て環境整備基金（新条例）
この条例は、子育てや教育に関する様々な事業を少しでも安定して展開していくため、樹木葬墓苑使用料の剰余金を活用しその財源とするものです。具体的には、小学校、中学校の外国語のA・L・Tを増やしたり、中学生の海外派遣を行ったりする際の財源として基金の活用を考えています。

（2）外国人研修生との交流

現在、越生町に日本の企業で働くために滞在している外国人研修生がいます。越生町の小学生、中学生が、文化交流や英語の実践研修を行うものです。年に数回各校と交流を図ることを計画しています。



へ地域と共に収穫祭へ

この他にも、越生小学校と梅園小学校との合同行事や合同授業の取組を行い、お互いのよさを生かした小・小連携を一層推進し、小・中学校9年間の一貫した教育を推進します。

また、昨年度から実施している、学校運営協議会（「コミュニティスクール」）を充実させ、学校・家庭・地域が一体となった様々な取り組みを実践していきます。

「子育てと教育のまち 越生」を目指して、令和2年度もご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

越生浪漫

No.135

龍ヶ谷の障子岩 (断層鏡肌)

○越生町では46年ぶり！

6件目の県指定天然記念物になりました！

龍ヶ谷の障子岩は、龍穩寺から野末張見晴台へ向かう林道梅本線から折れて脇道（梅本支線）を登ると現れる、巨大な一枚岩です。
チャートという岩の塊が高さ50m、幅56mの規模で露出



龍ヶ谷の障子岩（「断層鏡肌」が見られる岩肌）

しています。

○地史を語るチャート

大昔、この付近が深海底だったと言われると驚かれるでしょうか。障子岩を形成するチャート中には、今から約2億2千万年前の中世代トリ阿斯紀の海に生きていた放散虫と呼ばれるプランクトンの化石が含まれていました。

○障子岩の由来

岩石がまるで障子を立てたように切り立っていることから「障子岩」と呼ばれるようになったようです。また、この場所は小字名も「障子岩」で、地元の方々から親しまれてきた名称でもあります。

○断層鏡肌とは？

障子岩の一部に周囲とは異なる、表面がツルツルし、木漏れ日を浴びて光り輝く岩肌があります。障子岩が別名「鏡岩」と呼ばれてきた由縁です。高さ8m、幅13mの範囲で見られるこの鏡面が、断層運動によって岩盤同士が擦り合いながら動いたため磨かれ生じた「断層鏡肌」です。

障子岩の鏡肌をよく観察すると、擦痕（スリッケンライン）が入っているのが見えます。

障子岩は、縦方向の断層運動により隆起し、地表に現れたものだと言われます。

大規模で、保存状態が良好で、断層鏡肌の観察も容易であり、地域の成り立ちを知る上で学術的価値が高いと評価され、令和2年2月21日付けで県指定天然記念物に指定されました。

○県指定天然記念物になるまで

平成28年12月、埼玉県文化財保護審議会による調査が入りました。当時、岩壁には樹木が生え、枯葉や土砂が堆積



整備事業前の障子岩

し、断層鏡肌は葉や苔で覆い隠されていました。

平成30年、障子岩が県指定天然記念物の候補となり、龍ヶ谷地域活性化推進の会による整備事業がスタートしました。会の皆様の献身的な尽力により、現在は上の写真のように、巨大なグレイチャートの一枚岩を観察することができようになりました。

龍ヶ谷区の観光名所の一つとして、そして貴重な地質遺産として、町は地元と協力して、今後も整備と活用を進めてまいります。

○アクセス

現在、林道梅本線は、昨秋の台風19号の影響により、龍穩寺西の2km地点から奥は車両進入禁止になっています。進入禁止地点から障子岩までは約1km、徒歩20分ほどです。

林道梅本支線の入口には「障子岩入口」の看板があります。支線は舗装されていません。くれぐれも足元に注意して、見学をお願いいたします。また、岩石の崩落にもご注意ください。

名称・指定月日

- 1 上谷の大クス
大正 11. 3. 29
- 2 黒山の特殊植物群落
昭和 31. 11. 1
- 3 大高取山のコシダ群落
昭和 39. 3. 27
- 4 龍穩寺のモミ及び着生植物
昭和 48. 4. 27
- * 指定変更：龍穩寺の着生植物群
平成 25. 3. 12
- 5 梅園神社のスタジオ林
昭和 49. 5. 28

越生町の県指定天然記念物



「龍ヶ谷の障子岩(断層鏡肌)」周辺地図